

米H. B. フーラーと

積水化学工業の合併会社
積水フーラー（東京都港
区）の浜松工場（浜松市）
では、おむつなどに使用
するゴムホットメルトや
キッチンタオルなどに使
用する水系接着剤、製本
などに向けたオレフィン
系ホットメルトなど多種
多様な接着剤を製造して
いる。敷地内にある研究
所と連携しながら、高付
加価値製品の安定供給を
続ける。

53年の歴史を持つ浜松
工場は時代や製品需要の
流れに合わせて製造体制

工場ポ

積水フーラー 浜松工場

接着剤の製造・開発一体

廃棄物0 製品を主力展開

を強化しており、現在は3つの製造棟が稼働している。2020年には防潮堤を新設し、災害対策も万全だ。製造作業は原料の投入など手作業も多いため「製品検査や原料投入などの工程で自動化を検討する」と西野正史工場長は話す。同社製品の製造には高い配合技術が欠かせないとして、両立できる分野での機械化、省人化を進める計画だという。

同社の手掛ける製品の特徴は、廃棄物を出さない「ゼロバック」と呼ばれるホットメルト接着剤だ。接着剤を非粘性フ



従業員が積極的に改善案を出し合い柔軟に整備する

イルムで包装しており、タンクに梱包装袋ごと投入できる。浜松工場ではゼロバックを平日5日間、24時間体制で製造している。原

料を混ぜ合わせた後、異物やごみなどを除去して水中で接着剤をカット。振動やエアで乾燥させ、接着剤同士がくっつくようにコーティングする。接着剤のカット時に使用する水は再利用しているほか、消費電力の低減やリサイクルプラスチックのパレット、コテナを使用するなど環境に配慮した製品作りを行っている。製造工程の中で負担を感じる個所などは従業員が積極的に改善案を出し合い、業務フローの改訂を行っている。同じ工場内で作業を

ける自動車やエレクトロニクスといった分野に向けた接着剤の開発を行っている。原料の混合や合成などを行い、接着剤の粘性や弾性といった機能性を確かめている。顧客に合わせた接着剤の製造を行っているため、製品の性能検査は重要な工程だ。利便性の良さや生産技術などを加味し、19年に同社が買収した接着剤メーカー、MSアーデルの光硬化型接着剤の生産エリアも浜松工場内に移転。製品需要は好調に推移しており、今後の動向によっては生産エリアの拡大や移転も視野に入れているという。

積水フーラーは製品開発や検査などに対する設備投資を積極的に実施している。研究所内には接着剤の実際の使用感を確かめられる検査室を用意しており、温度や湿度などを変えながら製品検査を行っている。親会社のH. B. フーラーや積水化学工業が持つ検査機器などを使用することも積水フーラーの強みだ。顧客の求める適性を評価するには追加の設備投資が必要だとして、来年度をめどに導入を検討する。積水フーラーの浜松工場は、多種多様な製品の製造や開発、評価などを実施できる万能な拠点だ。今後も生産性向上に向けた製造体制の整備などを継続して行いながら、製造と開発の両翼を担う拠点として成長し続ける。（小椋響稀）